

## 第5回 武蔵野市多文化共生推進懇談会会議録（要録）

### 【会議概要】

日 時	令和4年12月13日（火）19:00～21:00
場 所	武蔵野市役所 西棟4階 411会議室
出席委員	薦田委員、新居委員、田村委員*、木下委員、中澤委員、ウ委員*、田川委員 （*はオンライン参加）
事務局	多文化共生・交流課職員
傍聴人	2名
会議次第	1. 開会 2. 議題 （1）武蔵野市多文化共生推進プラン（案）について 3. その他
配付資料	資料1 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間のまとめのパブリックコメントと市の対応方針について 資料2 武蔵野市多文化共生推進プラン 修正項目一覧 資料3 武蔵野市多文化共生推進プラン（案） 資料4 武蔵野市多文化共生推進懇談会 傍聴者アンケート 第4回実施分（令和4年11月15日開催）自由記載欄

### 【議事】

#### 1. 開会

#### 2. 議題

##### （1）武蔵野市多文化共生推進プラン（案）について

中間のまとめのパブリックコメントと市の対応方針についての前回からの変更内容、意見を受けてのプランの修正内容について、資料1～3を用いて事務局より説明した。

A委員	資料2の9番は、東京都の教育相談を紹介するだけなのか。NPOや相談先を紹介するだけというのは、ちょっとどうかという気がする。例えば、「民間団体が実施する学習支援活動や東京都の教育相談と連携する」というのはどうか。実際、相談が来たときに紹介して終わり、ということではなく、その後の様子も伺っているのではないか。だとすれば、連携と書いてしまったほうが、読み手としては紹介するだけでなく、踏み込んで対応しているという納得感が増す気がする。
B委員	小中学校は市の教育委員会だが、高校生になると市の教育委員会ではないので踏み込めないのではないか。
C委員	市役所の業務の幅を意識した表現が各所に見られる、というのが正直など

	<p>ころ。委員がおっしゃったとおり、実際は紹介しているだけではない、ということであれば、うまく表現できるという。</p>
事務局	<p>確かに紹介するだけ、という感じは否めないで、「連携」を加えることで一歩踏み込んだという意図も伝わると思う。その方向で修正したい。</p> <p>小中学校は義務教育のため基礎自治体が関われるが、高校生年代以上は、必要性は重々承知しているものの、このように表現せざるを得ない。</p>
A委員	<p>義務教育年齢という、「外国人の子どもは義務教育ではない」と言われる可能性があると思うがいかがか。個人的には、国際人権規約や子どもの権利条約を批准している国だから、外国人の子どもであっても義務教育だという主張を持っているが、文部科学省はそうではないと言っている。表現としては「就学年齢を過ぎた子ども」とした方がいいのではないかな。</p>
事務局	<p>事務局では「学齢」等の言葉も考えたが、何歳くらいなのかを読み手が想像しやすいのがこの言葉だということで、あえて「義務教育年齢」とした。おっしゃるとおり、そういった指摘がある可能性は否めない。</p>
C委員	<p>私も全く同意見で、義務教育にすべきだと思っている。その観点から変えないでいただきたいというのは、その上の文章。「市立小中学校の児童生徒については」と書いていて、これは義務教育でなくても市立小中学校に在籍している外国人の児童生徒という意味だと思うので、これをしっかり掲げていることは素晴らしいと思う。引き続き帰国外国人教育相談室の事業を推進するだけでいいのかはわからないが、ぜひこれは残していただきたい。</p>
事務局	<p>事務局としては「義務教育年齢」という言葉でいいと思って出している。「学齢」というのも色々な定義があり、「義務教育年齢」が一番理解しやすいと思われるため言葉としては変えないでいきたい。</p>
D委員	<p>ただ、高校生の年齢になって来日した子どもに対して、私たちも相談に乗って紹介する以上のことがなかなかできないのが現実なので、ここにどう書けばいいのか悩んでいるが、紹介しているからいいということではなく、相談に乗って一緒に考えるというニュアンスが含まれればいいと思う。</p>
事務局	<p>では、「学習支援活動や教育相談と連携するなど」と、ただ紹介するだけでなくサポートもしていくようなニュアンスで整えていきたい。</p>
B委員	<p>7番の「外国人と見られやすい」と修正したところについて、あえて「見られやすい」という表現を残す必要があるか。この前の文章では外国籍であっても日本で生まれ育った人や日本国籍であっても日本語が話せない人、など内面的なことを書いている。その後に見た目のことを書くべきなのか。</p>
事務局	<p>ここは事務局の中でも議論し、「誤解」という言葉がかなり強く、どう修正したらいいのか考えた。ここは言葉の定義のところなので、そういう人もいるということを伝えないといけないと考え、説明に入れている。</p>

E委員	典型的な例を挙げているところなので、そのままがいいと思う。特に「外見から外国人と見られやすい」という問題は本当に多いので、例として出していいと思う。
事務局	資料1の17ページ、12-8の意見をご覧いただきたい。例として挙げるべきという意見だったので、事務局としては落とさなかった。 また、昨年度実施した外国籍市民意識調査で、外国人に見えるからといって必ず英語で話しかけられるのが嫌だ、日本人と同じように扱ってほしいという意見と、逆に日本人に見えるが実は日本国籍ではないという人の回答もあり、外見で判断して接すると想定しない結果が起こるかもしれないことを知っていただきたい、という意味を込めて残した。
B委員	外国人と見られることだけでなく、日本人と見られることが嫌な外国人もいるわけだから、このあたりの表現は「外見で判断されてしまう」とすると、意図が伝わりやすくなるのではないか。
事務局	確かにこの修正では片方にしか言及していないので、両方のことが言える表現もあるかもしれない。
F委員	「外見から外国人と見られやすい人」の「外国人」という言葉を削除したうえで繋ぎを良くするという形か。
B委員	「外見によって判断されたり」という表現では足りないか。
事務局	同じく12-8の意見で、『『大多数の日本人とは違う見た目』で国籍を判断する差別的な行為を是とするニュアンスに受け取れます』と書かれており、事務局としては「判断」という言葉も使わないようにした。ただ、必ずしもこの表現がベストだとは思っていない。
E委員	外見について、一点経験を共有したい。外見から人を判断することは仕方がなく、判断すると言われてもそれは無理な話。しかし実際は、外見だけで判断されるのは困る。アメリカ人の友達が困っていたのは、まず外見で外国人と判断されてしまうと、自分から日本語で喋ったとしても相手は英語でしか話さなかったり、「この人は日本語が話せない」と決めつけられてしまったり、外見だけで全てを判断されることだった。私もそう思う。外見で判断することは仕方がないが、そういうところが一番嫌なことだと思う。
F委員	「外見」という言葉を抜いたらどうか。もう少し色々なニュアンスを含むものになるのではないか。
B委員	「外国人と見られやすい」がかなりネガティブな表現になる。
F委員	「見られやすい」も、「誤解されやすい」よりは柔らかいものの少しネガティブなイメージがあると思った。事務局から「判断される」という言葉もあまりよくないと言われたが、個人的にはそこまでネガティブには感じない。
A委員	今、代替案を作ってみた。「外見から、日本人・外国人と区別されることに

	<p>違和感を覚える人がいることを理解することが重要です。」</p> <p>どちらかに入れられるから嫌ということではなく、外見だけで判断されることに違和感がある人がいる。その前の文章は外国籍だが日本生まれの人もいるし、日本国籍だが日本語がわからない人もいる、という言葉の問題の話。それに続いて外見の話で、外見だけで区別されることに違和感がある人がいることを理解しましょう、という文章であれば、それほどネガティブな話でもないのではないか。また、この表現にすれば外見で日本人と判断される人の違和感も含むことができるのかなと思うが、いかがか。</p>
D委員	<p>「区別されること」を「決め付けられること」にするのは表現としてきついか。</p>
A委員	<p>いいと思う。</p>
E委員	<p>私もその代替案に賛成。そういう言葉か同じニュアンスの言葉がぴったりだと思う。</p>
事務局	<p>では、そのような形で修正させていただく。</p>
C委員	<p>資料1の10ページの9-8で、多文化共生・交流課を下層階へという話について、ワンストップサービスのようなことができないかと思っている。直接用のある課に行っているので大丈夫というのは、それができる人はいいが、誰一人取り残さないということになると困っている人をどうするかという話になる。1階にはインフォメーションデスクのような受付が当然あると思うが、そこでまず対応するのか。</p>
事務局	<p>基本的には、何か困りごとがあれば受付のところいらっしゃって、そこから各課に内線電話で、お客様からこういうお問い合わせがあるということ連絡して、各課で対応してもらうこともあれば、多文化共生・交流課からサポートに行くケースもある。</p>
C委員	<p>多言語サポートもすぐにはできなくても誰か駆けつけてくれるのか。</p>
事務局	<p>日本語が話せず、どこに行けばわからない方が来庁された場合は、まずは受付から多文化共生・交流課に連絡があり、英語・韓国語の場合は職員が、それ以外の場合は通訳タブレットを持って受付に駆けつける。そこで聞き取りを行い、そのまま一緒に当該の課に案内している。</p>
C委員	<p>本当に何もわからない方の場合、多文化共生・交流課があってもわからない。その意味でワンストップ的なものが必要だと思うが、まずどこに行けばいいかわかるようにすることが重要。そういう体制があるのであればよい。</p>
B委員	<p>今の意見はまさにそうだ。認知症を患っているお年寄りや、若い高校生が来たときも同じだと思うので、市役所が外国人にも優しく、ワンストップになっていたら、市民にとってはとてもいいだろう。</p> <p>もしやっているのであればそれをきちんと書くべき。「受付には外国人も含</p>

	めて様々な方がいらっしゃるので、そこで必要な窓口の案内や対応を行っています」と、市全体の動きを書いた方がいい。
D委員	受付で尋ねれば多言語で対応してもらえるとすることは外国人の方に周知されていないと思う。市役所に行きたいが言葉が通じないといってM I Aに連絡される方もいらっしゃるので、周知していただきたい。
G委員	「多言語対応ができています」というのは、どこまでのことを言うのかというレベル感もある。十分にできているかといわれると、自信はない。ワンストップサービスを標榜して、できていると胸を張れる状況ではない。
B委員	役割としてできているかという視点もあるかもしれないが、外国人が来たら対応しているのであれば、できていると思う。
D委員	M I Aに関係する外国人の方に意見を聞いても、市役所は非常に優しく丁寧に対応してくれると言っている方が多い。
事務局	事務局から外国人がよく行く窓口を確認したところ、用がある方は日本語がわかる方を同伴するケースが多いということだった。また、本人だけで日本語が通じないという場合も、多文化共生・交流課に連絡が来るので、通訳タブレットを持って行って対応している。それから、市役所の書類についても、英語が併記されたものを用意したり、記入例に英語をつけたりといったことを順次進めている。
D委員	資料2の11番、「DV、ヤングケアラー対応、子育て、高齢化など市の色々な施策の中に」というところだが、M I Aも外国人特有の相談については対応を行っているので、「外国人特有の相談にも専門家が対応しています」というような形で入れることも可能だ。 例えば介護についても、介護者が外国人、あるいは介護を受ける本人が外国人というケースもあれば、言葉の問題だけではなく文化的な違いからくる問題もある。また、法律の絡むことや在留資格のこと、子育てやDV対応など、様々な専門知識が必要になる。
事務局	事務局からぜひご意見をいただきたい点がある。プランについて、「中間のまとめ」からふりがなを振っているが、この方法が良いのか迷っている。例えば概要版をやさしい日本語にしたりふりがなを振ったりして、プランの本体については日本人に主に読んでもらうという意図を持って、あえてふりがなをつけないという方法もあると思うが、いかがか。
B委員	東京都つながり創生財団が「やさしい日本語を活用した在住外国人への情報伝達に関する調査」という調査をしていて、フォントの大きさや行間、ふりがなの振り方なども細かく調査しているので、そういったものを参考にし、見た目を整える方法もあると思う。主流になってきているのは、外国人がスマートフォンやパソコンの翻訳機能で自分の言語に訳しやすいように、

	<p>しっかりとしたものを英語で作って、テキストデータで公開する。あわせて、見開きの三つ折りリーフレットで、ふりがなをたくさん入れて、色もユニバーサルデザインにこだわったものを3パターンぐらい作るところが多い。</p>
A委員	<p>最近のこういうものの使われ方として、利用者は翻訳機能を使いたいが、ふりがながあるとうまくコピーができず訳されない場合がある。そうした使われ方を前提として方法を検討するといふ。私はふりがな付きのものがあることには全く違和感がないし、あって助かるという人もたくさんいると思う。</p>
F委員	<p>私の専門分野の対象が障害のある方たちなので、完全にイコールになるかわからないが、例えば知的障害がある方が読んでわかるものは当事者の方にも読みやすいと思う。また、ふりがなは振られているものの文章自体が難しいので、そういう意味で対応としては不足していると思う。</p>
E委員	<p>自動翻訳を想定して、ふりがながあるものとなないもの、せめて2つあった方がいいと思う。正確に翻訳するとなると、予算の問題がある。そうなると、必要な人にデジタルで情報を渡す方法がいいと思う。</p>
D委員	<p>日本語からの翻訳より英語からの翻訳の方が正確な場合が多いので、予算があれば英語にできるといい。</p>
事務局	<p>いろいろご意見を伺って、まとめとしては、まず印刷物として公表するものに関しては、ふりがなのない形で作り、ふりがながあるものも作って、好きなほうを手にとっていただけるようにする。そのうえで、ホームページ等でアップできるものとして、英語でしっかりと翻訳されたものを作る。</p> <p>また、さらにイラスト等を使用し、表現も易しくしたリーフレットを作る。予算のことは一切考えていないが、そういうイメージでよろしいか。</p>
A委員	<p>今回のものが今後の武蔵野市の情報発信の1つのモデルになるといいと思う。このプランの内容を進めていく中で、各部署から色々な声が上がってくると思うので、次の改訂の時に、今後の武蔵野市の情報発信の方針を検討するうえでの最初の一步のモデルになるといい。</p>
B委員	<p>ICTこそ外国人の多言語対応と相性がいいと思うので、そのあたりをうまくリードする形でできるといい。</p>
A委員	<p>今まで色々な自治体でプランの策定に関わってきたが、もう2回目、3回目の改訂をしているところもある。1回作って終わりではなく、作ったものがどのように浸透し、進捗をどのように把握して、次の改訂に生かしていくかを考えると、今後はもっとICT技術が進んでいると思う。今回の委員会も私は一度も会場に行かずにオンラインで参加している。こんなことは以前では考えられなかった。</p> <p>今は印刷して配るものについて議論しているが、コミュニケーションの技術や、印刷やウェブサイトの技術が今後新しくなったときに、それに合わせ</p>

	て情報発信のあり方も、次のプランの改定に向けて意識しておく必要がある。
事務局	懇談会での一つの結論としては、先ほどの4つのパターンでプランを伝えていくということをベースに進めていきたい。
A委員	資料3の本文の1ページの在留外国人数の推移や、4ページの武蔵野市の外国人住民についての統計について、最新のデータがあれば差し替えたほうがいい。全国に関しては6月末現在のものは出ていて、既に過去最多を更新している。今年の伸びがすごい。
B委員	資料3について、今回市民意識調査の内容が追加されたが、その分の記載が多すぎるのではないかと思った。
F委員	私も市民意識調査の内容が多くて、伝えたいことが伝わりにくくなっていると思った。本文はギュッとまとめて、資料みたいな形で後ろに調査結果をつけたほうが、プランで伝えたいことが伝わりやすくなる。ただ、調査の結果とプランの内容がリンクしている部分は分けにくいかもしれない。
D委員	市民意識調査の結果が、残念なことに外国人に対してあまり関心がなくて、あまり交流する気持ちもないような結果だ。事実かもしれないが、読んだ人が多文化共生にネガティブな印象を持つてしまうのではないかと思った。
A委員	確かに主要な部分だけをダイジェストで紹介して、詳しくは資料編ということで後ろにつけたほうが良いと思って見ているが、なかなかどれも落とせない。いずれも本編に関係する項目なので、どれを資料編に回してどれを本編に残すのかは難しいところ。
C委員	正確性を期すために載せているのだと思う。ただ、「その他」、「特にない」、「わからない」、「無回答」まで全部載せなければならないのか。
B委員	もう少しコンパクトにして、レイアウトの工夫などできないか。
事務局	今回、特別に市民意識調査の中で多文化共生について聞いたので、これはぜひ全て載せたい。多少レイアウトを変えるなど調整しても、分けたりせずにここに入れたいと思っている。
D委員	次回の改定のときに同じような調査をして、結果が大きく変わっていると、プランの効果が見えると思う。
A委員	調査結果の紹介が分厚いのではなくて、本編が薄いのだと思う。したがって、取組みを進めていくことで、プランを改訂する度に本編が分厚くなっていく、というプロセスの繰り返しではないか。本編がもっと具体的に、施策が分厚くなってくれば、資料編の分厚さは気にならなくなる。ただ、これは本編が薄いこと自体を批判しているのではない。これから分厚くなればいい。取り組んでいくと、おのずから分厚くなっていく。
C委員	同じく市民意識調査について、東京都と比べる意図は何かあるのか。東京都の中で武蔵野市の特徴を言いたいのであれば意味はあるかもしれないが。

	そういう意味では、比較して見えた違いについて、武蔵野市と東京都で役割分担や補完関係ができるといい。
B委員	10ページと11ページの東京都との比較の中で、外国人との関わりの希望について、「どちらともいえない」という回答はネガティブだが、希望する外国人との関わり方として「近所のお付き合いをしたい」という回答が多いのは、武蔵野らしさだと思う。このあたりが本来は本編の後半で、力強くうたわれていくべきことだと思う。
F委員	逆に「職場や仕事関係で関わりたい」が、すごく低い。
C委員	武蔵野市は「住むまち」で、都心に通勤する人が圧倒的に多いのだろう。
G委員	武蔵野市と東京都で調査の方法が違う。かたや調査員による個別訪問面接聴取法で、かたや郵送・WEBで回収するというやり方なので、調査結果も違ってくるだろう。そういった点も考慮しながら、単純比較はできないが並べてみて、その後の調査で変化を見ていくという点で活用できればと思う。
D委員	調査の実施時期が違うのも大きいと思う。コロナ前で東京オリンピック・パラリンピックを控えた明るい時代と、2022年だとかなり違う。

### 3. その他

事務局	この懇談会は本日が最終回。最後に、委員から懇談会の感想や今後への期待など、一言ずついただきたい。
F委員	懇談会に参加させてもらい、一市民として何より光栄だった。この領域について勉強不足なこともあって大変勉強になったが、何より楽しかった。これだけポジティブに共生社会を構築していこうという委員、事務局の皆さんと前向きな議論ができたのが一つの財産になった。この計画は第一歩ということで、今回はボリュームとしては小さいかもしれないが、中身を確実に啓発・普及して行って、評価やモニタリングをしながら、達成できた部分、できなかった部分、新たに見えてきた課題を整理した上で、もう一步踏み込んだプランができていくといいと考えている。
B委員	武蔵野市の素晴らしいところの一つとして、私はルーマニア・ブラショフ市との市民同士の交流があると思う。ルーマニアは今戦禍のウクライナと国境を接している国でもあり、そこで市民が交流し、同時に、高校生や学生が交流している。このプランを未来志向で考えるならば、子どもたちの地続きの交流、それと同時に今このまちの、この学校の教室の中にも色々な人がいるのだという、そういう繋がりを感じるようなものが展開されていったら、より個々の誇りや、武蔵野が好きだという思いが広がっていくのではないかなと思う。 本当に現実的な交流をしているのが武蔵野の特徴だと思うので、それを若



	<p>い世代にも広げていって、平和の領域のことも多文化共生の中の目標に設定されれば良いと思う。私はルーマニアで武蔵野のことを初めて知って今ここに繋がりを持っているので、そんなグローバルな視点での広がりが、このまちに広がっていくといいと思った。</p>
D委員	<p>「国際平和に寄与する開かれたまち作り」を目標に国際交流協会が設立され、今日まで地道に活動を続けてきた。多文化共生推進プランが周辺市区で次々とできていく中、武蔵野市が多文化共生推進プランをついに作るということを楽しんでいる。色々な文化を持つ人が仲良く暮らしていくことは非常に難しいし、実際に今戦争が起こっているところもある。紛争地域もたくさんあるが、そのような地域の出身の方たちが、MIAの日本語教室で仲良く一緒に日本語学習をされている姿を見ると、みんな仲良くできるのではないかと思っている。武蔵野から多文化共生を推進していって、もっともっと素晴らしい世の中になればいいと思う。</p>
C委員	<p>非常に武蔵野市が好きだし、いいまちだと改めて思った。武蔵野市への愛がさらに深まったと思っている。武蔵野市には、例えば東京都内で見たと、あるいは日本全国で見たと、より先進的なことをやってもらいたいという期待も高いし、それができるだけのリソースもおそらくある。外国人との共生社会が日本全体で進んでいくと、武蔵野市への期待が色々なところから想像以上に高まってくると思うので、ぜひこういう市民を巻き込む機会を作ってもらおうとともに、覚悟を持って、前進してもらいたい。</p>
E委員	<p>日本に来てそろそろ7年目になるが、自分は外国人だという認識がすごく強かった。この懇談会に参加して初めて、私は一人の人間として日本にいるということを実感し、日本人ではないけれども、ここに住んでいる一人の人間だという感覚を持てたのがすごく良かった。この懇談会では色々なことが勉強になり、本当は私も色々な貢献をしないといけないが、一方的にたくさんのもをもらったという感じ。嬉しい、ありがたい気持ちでいっぱい。</p> <p>今後も私みたいに、自分がこのまちに住んでいるという実感ができるようなチャンスが増えて、他の外国人の方も体験できるといいと思う。</p>
A委員	<p>今の委員のコメントが素晴らしすぎて、素敵だと思った。</p> <p>2000年代の初めから2010年ごろまでよく武蔵野市に足を運んでいて、MIAの職員だった方に色々なことを勉強させてもらい、やはり武蔵野はすごいなと思ってきた。今回もお声掛けいただき感謝している。</p> <p>これからの武蔵野にとって、今回のプランはこれから肉付けしていくものになったと思う。他の地域ではプランを作っておしまいというところも正直いくつかある。プランを作ること自体を目的にせず、作ってから、できてからが勝負なので、できたものをしっかりと市役所の中、それから市民の皆さま</p>

	<p>んに浸透させて、次の改定のときにどれくらい肉付けされたものになっていくかを注意深く見守っていきたいと思った。</p> <p>関西なら大阪府の箕面市や豊中市という、この分野でいつもベンチマーク（参考に）されている自治体がいくつかあるが、間違いなく武蔵野市もその一つに入ってくると思う。もちろんこのプランは、外国人も含めて武蔵野市で暮らす人たちのためのものだが、それだけにとどまらず、他の地域から武蔵野はどんなプランを作ったのか必ず注目されると思うし、それがこれからどのように浸透していくか見られていると思うので、そういう人たちの注目をうまく力に変えながら、このプランが武蔵野市民にとっていいものになっていくことを願っている。</p>
G委員	<p>非常に勉強になった。何よりも大切なことは、これから中身を厚くすることだ。プランに書かれていることを実践してどんどん積み上げていくということを心して取り組んでいかなければならないと思う。違いを知る、他を知るということは大事で、そこから何を学び、次に生かしていくかということだと思うので、積極的に違いを知り、取組みを共有していきたいと思っている。今後もぜひ武蔵野市にご協力いただきたい。</p>